

各大学における多面的な評価に関する取組事例

お茶の水女子大学における多面的な評価の取組事例（AO入試（新フンボルト入試））

概要

- ・選抜区分： AO入試
- ・選抜方法等： プレゼミナル受講（第1次選考）
図書館入試・実験室入試（第2次選考）

【概要】

プレゼミナル(第1次選考)と図書館入試・実験室入試(第2次選考)による総合的・多面的な評価によって、主体性に満ちたポテンシャルある受験生を選抜

○第1次選考[プレゼミナル]

文理合わせて10有余のセミナーを開講
大学の学びを直接にライブで体験
高校2年生以上(受験生以外)でもプレゼミ受講可能
受験生はセミナー受講後、レポートを作成

○第2次選考

【図書館入試（文系）】

初日：テーマに基づいたレポートを、図書館資料を自由に参照しながら長時間をかけて作成

2日目：グループ討論・個別面接

【実験室入試（理系）】

学科毎の専門性を踏まえた課題を課す
課題研究のポスター発表を主選考方法に(一部学科)

○新AO入試導入後4年間の実績(H29～R2年度入試)

AO出願者数 198 / 192 / 177 / 222

プレゼミ受講者数 358 / 382 / 364 / 442

手間暇かかった入試、受験・受講そのものが主体性を“表象”

評価・判定等の視点・ポイント(一部抜粋)

○第1次選考

・受験生の志望動機、意欲、高校での活動実績などを提出書類から評価

活動報告書では、志望理由書とリンクさせ、高校での諸活動が、入学後の学びに具体的にどう活かされるのかといった視点を重視

○第2次選考

・(文系)グループ討論では、自身の意見だけでなく他者の意見を踏まえて全体で議論をまとめるという「協働する力」を評価ポイントのひとつに

・(理系)基礎学力をベースに思考力・論理力・探究力・プレゼンテーション力、等を評価

自主課題研究のポスター発表（一部学科）

評価・判定等に用いる資料

○第1次選考

・志望理由書・活動報告書・調査書

・英語認定試験の級・スコア、IB資格【出願時に提出】

・プレゼミ当日に作成のセミナー受講レポート
→これらを総合的に判断し、一次判定

○第2次選考

(文系)初日図書館入試で作成したレポート

志望理由書などの出願書類

(理系)自主課題研究ポスターを提出（一部学科）

追手門学院大学における多面的な評価の取組事例（AO入試（アサーティブ入試））

概要

- ・選抜区分：アサーティブ入試
- ・選抜方法等：グループディスカッション・基礎学力適性検査（国語・数学・英語）・面接

【概要】

受験生像を設定し、受験生としての心構えをメッセージとしている。

◆追手門学院大学で学びたいという気持ちを描き、その思いを伝えられる人

◆今は確かな希望や理念がなくとも、知的な事柄への興味や活動を通じ、何のために学ぶのかを問い続け、努力する人

◆高校までの基礎的な知識や技能の習得を見直し、向上しようと努力する人

上記、受験生像に育成するのが「アサーティブプログラム」。

※このプログラムでは、個別面談や本学独自開発のMANABOSSを通して主体性・思考力・判断力・表現力を育成し、基礎学力の見直しを促す。

アサーティブ入試は、このプログラムの成果を発揮する場として設計。

※基礎学力・主体性・協働性・思考力・判断力・表現力・意欲・知的関心等を総合的に評価する。

評価・判定等の視点・ポイント

◆ 1次試験（グループディスカッションと基礎学力適性検査）

- ・グループディスカッションは、1グループ5～6名で約30分の議論。
- ・主体性や協調性、論理性等を評価（職員2名による評価）。
- ・基礎学力適性検査は、90分60問（国語・数学・英語各20問）。
- ・グループディスカッションと基礎学力適性検査それぞれが一定水準以上かどうか総合的に評価して合否を判定。

◆ 2次試験（個別面接）

- ・教員と職員がペアとなり、志望理由や学問に対する意欲や知的関心のレベル等を評価し判定。

評価・判定等に用いる資料

- ・グループディスカッションと個別面接は、評価シートを用いて、評価者がそれぞれ評価をした合計点の平均点。
- ・基礎学力適性検査の点数。
- ・出願書類（志望理由書・調査書）は、参考資料。

立命館アジア太平洋大学における多面的な評価の取組事例（AO入試（活動実績アピール方式））

※AO入試はこの方式のほか、「総合評価方式」「英語基準AO方式」がある。

概要

- 選抜区分 : AO入学試験（活動実績アピール方式）
- 選抜方法等 : 【第1次選考】
志望理由書 + 活動実績報告書 + エッセイ
【第2次選考】
個人面接

【概要】

- 中学校卒業後から出願時まで修得した英語能力や海外留学等の国際経験をはじめ、学業、文化、芸術、スポーツ、ボランティアなど、さまざまな分野での活動実績・成果と、入学後の活動意欲や学習意欲を評価。
- 入学後の学修および正課外活動の両立を高いレベルで実現することをめざす人はもちろん、活動は継続しなくても、意欲的な取り組みにより培われた能力を生かし、入学後の生活を積極的に進めることのできる学生の入学を期待。

【出願基準】

・カテゴリ A（英語能力・留学経験アピール）

- ①～③のいずれかに該当する者
- ① 英語能力に関して、TOEFLiBT TEST42点相当以上のスコアを持つ者。
- ② International Baccalaureate (IB) のディプロマを英語で取得もしくは取得見込みの者
- ③ 外国における高等学校に相当する課程で、正規の教育制度に基づき通算3カ月以上の教育を受けた者

・カテゴリ B（言語・学芸・社会活動・スポーツ等アピール）

中学卒業後から出願時までの諸活動において優れた実績を持つ者で、高等学校の評定平均が5段階で3.5以上の者

主な評価ポイント

- 志望理由書
志望学部への興味・関心、入学後の学修等に対する意欲・熱意、記述の論理性・説得力など
- 活動実績報告書
言語能力、コンクール・大会等での活動成果、海外での学習成果、取得資格等の水準
- エッセイ
諸活動における主体性等
- 個人面接
入学後の学修および正課外活動を含む学生生活全般への意欲、応答の適確性、コミュニケーション能力など

活動実績評価の目安

分野	本学が入学者に求める活動実績・成果の水準（目安）
英語関連資格	TOEFL iBT®Test 61点程度 (TOEIC®L&R TEST 700点、IELTS (Academic Module) 5.5、英検®準1級、GTEC (4技能) 1260点、GTEC (3技能) 780点、TEAP (R+Lの合計) 144点、ケンブリッジ英検160点等)
言語	【中国語】中国語検定4級、実用中国語技能検定4級、HSK2級 【韓国語】韓国語能力検定2級、「ハングル」能力検定4級 【スペイン語】スペイン語技能検定4級 【上記以外の言語】スピーチコンテスト参加
学業	・IB Diploma保持者、IBプログラムの上級コース (HL) 科目における優秀な学業成績・成果
留学経験	・3ヶ月以上の海外留学経験および留学先での優秀な学業成績・成果
生徒会活動 ボランティア等	・生徒会 (会長・副会長等執行部) の活動や、社会的に注目・評価を得た (新聞に掲載された等) その他社会的な活動 (ボランティア等) ・「日本の次世代リーダー養成塾」等、高校生対象の人材育成プログラムへの参加実績 ・高校生を対象とする弁論・スピーチ、ビジネスプラン、課題学習等各種コンテストでの入賞歴
文化・芸術	・都道府県大会レベル以上のコンクール・コンテストへの出場経験、およびその成果
スポーツ	・都道府県大会レベル以上の試合・競技会等への選手 (競技者) またはチームマネージャー等としての出場経験、およびその成果
学術	・スーパーグローバルハイスクール (SGHアソシエイト含む) での活動による研究会や発表会でのポスターセッション、研究発表の成果 (ただし、成果物のコピー等に加え、主催者や教員からの推薦書、評価書等の客観評価資料<書式は自由>を添付すること。) ・社会的に注目・評価を得た学術分野の諸活動における取り組みやその成果
各種資格等	・基本情報技術者試験合格、日商簿記2級以上 ・2年以上の公文式学習履歴があり、公文認定テストの高校基礎課程テスト (または最終教材修了テスト) で英語を含む2教科以上に合格

昭和女子大学における多面的な評価の取組事例（公募型推薦入試）

概要

- 選抜区分：公募型推薦入試
- 選抜方法等：出願書類※ + 小論文 + 面接
 100点 200点 100点
 （人間文化学部歴史文化学科の場合）

※出願書類は以下のとおり

- ①入学志願書 ②調査書 ③推薦書（学校長） ④自己報告書 ⑤資格取得証明書

- 調査書の取り扱い
 - 評定平均（全体・教科）は、高等学校での学習状況を把握するために評価
 - 学科により入学後必要となる教科・科目について、履修並びに成績の状況の評価
 - 入学後、授業への出席ならびに実習、研修、留学等、大学で必要な修学ができる状況を確認するために評価

- 自己報告書に記載の以下の「知識・技能」「高等学校入学以降の役員・賞歴」については、書類選考の際に加点評価

◆知識・技能

CEFR B1以上（英検CSE2.0 1950以上、TOEFLiBT42以上、IELTS4.0以上）
 日本漢字能力検定 2級以上 等

◆高等学校入学以降の役員・賞歴

役員歴（生徒会長、生徒会副会長、クラブ部長、学校全体行事委員長）
 全国大会入賞、入選（トーナメント協議の場合は、準決勝進出も可）

（これらはJAPAN e-Portfolioの学びのデータを提出することもできる）

➤ 小論文は800文字（歴史文化学科では課題図書を指定して、それに関する論題を当日提示する（当日持参可））

➤ 歴史文化学科の場合、歴史の基礎知識に関する質問を含めた面接を個別又は集合面接で実施

※なお、歴史文化学科の出願基準として、評定平均（全体）が3.4もしくは、①芸術・文化の分野で、都道府県規模の大会に出場もしくは出品し、入賞した者、②地元の文化財の保存・伝承に携わった経験を持つ者、もしくは史跡や文化財など、歴史文化学科に関連する調査・研究・発表の実績を持つ者であれば出願を認めている。

<提出について>

出願書類「自己報告書」に記載の「知能・技能」「高等学校入学以降の役員・賞歴」について、書類選考の際に加点評価し選考します。加点評価の対象となる資格や役員・賞歴がある場合は、JAPAN e-Portfolioを利用して該当する内容を提出することもできます。加点評価の対象については、大学AO入学試験はP.17、公募制推薦入学試験はP.24をご確認ください。

JAPAN e-Portfolioでの「学びのデータ」の提出方法については、JAPAN e-Portfolioで大学提出用データとして登録し、インターネット出願時に「JeP 出願コード」を提出してください。提出する学びのデータのカテゴリについては以下の表を確認してください。学びのデータの提出の詳細については、本学ホームページをご確認ください。加点評価の対象に該当しないものについては提出しないでください。

評価項目	[JAPAN e-Portfolio] 学びのデータ		
	活動カテゴリ	サブ活動カテゴリ	学びのデータカテゴリ
生徒会長（委員長）、生徒会副会長（副委員長）	B000 生徒会	生徒会・委員会	基本情報
学校全体行事委員長	C003 学校行事	学校行事	スポーツ大会・体育祭
	C004 学校行事	学校行事	文化祭・学園祭
クラブ部長	D105 部活動	スポーツ活動	役職の履歴
	D206 部活動	文化芸術活動	役職の履歴
	D305 部活動	アカデミック活動	役職の履歴
	D402 部活動	ボランティア・コミュニティ活動	役職の履歴
全国大会入賞・入選 (トーナメント競技の場合は、準決勝進出も可)	D101 部活動	スポーツ活動	大会・試合の結果
	D201 部活動	文化芸術活動	コンクール・コンテスト・大会の結果
	D301 部活動	アカデミック活動	コンクール・コンテスト・大会の結果
	D404 部活動	ボランティア・コミュニティ活動	コンクール・コンテスト・大会の結果
	E101 学校以外	スポーツ活動	大会・試合の結果
	E201 学校以外	文化芸術活動	コンクール・コンテスト・大会の結果
	E301 学校以外	アカデミック活動	コンクール・コンテスト・大会の結果
	E404 学校以外	ボランティア・コミュニティ活動	コンクール・コンテスト・大会の結果
	E502 学校以外	その他の活動	コンクール・コンテスト・大会の結果
	各種検定試験	H001 資格・検定	資格・検定

関西学院大学における多面的な評価の取組事例（スーパーグローバルハイスクール対象公募推薦入試）

概要

- 選抜区分：スーパーグローバルハイスクール対象公募推薦入試（全学部対象）
- 選抜方法等：【第一次審査】書類審査
【第二次審査】面接審査・プレゼンテーション審査等

スーパーグローバルハイスクール、SGHアソシエイト校およびその実績校において、課題研究を通じて能力を高めた生徒を、多面的・総合的に評価を行い、積極的に受け入れ、本学が採択されたスーパーグローバル大学事業への接続を促進するための公募推薦入学試験

<入試のポイント>

- ① 国公立大学など他大学との併願が可能
- ② 第一次審査は書類審査のみ
- ③ 第二次審査は面接（プレゼンテーション）や口頭試問等【学部により異なる】
- ④ 出願登録はインターネットにより行う
- ⑤ 高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」でも出願が可能

<対象>

- スーパーグローバルハイスクール（SGH）
- SGHアソシエイト校
- 上記の実績校

<書面審査における提出書類>

- 調査書
- 課題研究の概要説明書
→ 課題研究論文・発表の記録（ポスター・プレゼンテーションなど）・実験成果に関する説明書
- 課題研究成果物
→ 上記の成果物
※例えば、課題研究論文の場合は、論文若しくは論文要旨。
発表の記録の場合は、発表の場所や結果、グループ発表の場合は自分の役割、振り返りなど詳細に記入。
実験成果の場合は、ラポノートなど実験の目的・仮説、内容、自分の役割、結果、結果を踏まえた展望などが分かる資料を提出。
- 大学入学後の学びの計画書
→ 志望理由や大学入学後の勉学や学生生活について、どのような計画や期待を持っているかを記入
- 実績資料貼付用紙
→ 所定用紙に実績を客観的に証明する資料を貼付
※例えば、海外留学の実績や国際交流経験を有する場合、英語検定試験の実績や学習に関わる実績（全日本高校模擬国連大会や英語エッセイコンテスト、SGH甲子園や科学の甲子園などへの出場、入賞を証明する書類を提出。

<面接審査・プレゼンテーション審査>（教育学部の場合）

- 面接審査の中で、課題研究についてのプレゼンテーション（約5分）を行う。

※会場に用意されたホワイトボードやマグネット、セロハン、プロジェクター等を使用することができる。またパソコンやレジユメの持ち込みも可

佐賀大学における多面的な評価の取組事例（一般入試（理工学部・農学部））

評価の概要

- 選抜区分：一般入試（前期・後期日程）
※理工学部・農学部のみ
- 選抜方法等：センター試験 5 教科 7 科目、
個別学力検査 + **特色加点申請書**（任意）

【概要】

- **志願者の主体的な活動や実績を軸にした書類審査**
（申請する活動や実績は問わないが、例として、研究活動や課外活動、社会活動、資格・検定取得、海外留学経験などが該当）
- **当初配点とは別に、加点形式**
- **申請は受験生の任意**
- **受験生が多い理工学部では合格ボーダー層を評価**

書類審査を電子的に行う評価支援システム※で効率的・効果的に採点を実施

※インターネット出願登録システムと連動した専用サイト「J-Bridge System」を利用して申請

	（前期日程）		（後期日程）	
	当初配点	最大加点	当初配点	最大加点
理工学部	1500	30	1000	30

	（前期日程）		（後期日程）	
	当初配点	最大加点	当初配点	最大加点
農学部	1000	50	750	50

評価・判定等の視点・ポイント

- 仮に全員採点しても最終的な合否結果に影響がない受験者群を除いたうえで合格ボーダー層を抽出して評価

評価観点

以下の2観点から総合的に評価

- 専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度
- 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性

A P や入学後の学びとのマッチングを重視

評価・判定等に用いる資料

（申請は任意）

センター試験

+

個別学力検査

+

特色加点

【申請内容】（書類審査）

- 活動・実績の名称
- 主催，認定，授与，発行等の機関等の名称
- 活動期間または実績取得年月日
- 活動・実績を証明する資料及び参考資料等の添付
- 活動実績の概要【400字以内】
- A P や入学後の学習との関連性【400字以内】

豊田工業大学における多面的な評価の取組事例（一般入試）

概要

- 選抜区分：一般入試
- 選抜方法等：【第1次選考】
センター試験5教科7科目（A方式）
or センター試験3教科4科目（B方式）
【第2次選考】
面接試験

- 工学部の単科大学
- 第1次選考にてA方式とB方式それぞれ約半数ずつ合格
- 合格した者に対して面接試験を実施
- 合否判定の際は調査書等の内容に基づいて総合的に判定

アドミッション・ポリシー

学部においては、「基礎を重視した分野横断型の教育と体験的教育を行うことにより、社会人としての基礎力と国際的な視野を持ち、多様な課題に挑戦し克服できる学識と創造性を備えた技術者・研究者を育成すること。」を教育目標として、次のような学生を広く求めています。

- 高等学校等において教科・科目を幅広く学び、大学での学習に必要な基礎学力（特に、数学、理科、英語）を有している人
- 自己の能力向上に強い意欲を持ち、目標に向かって能動的に行動できる人
- 理工学に対する興味、関心があり、将来、理工学を通じて人類や社会の持続的な発展に貢献することを希望している人
- 論理的に考え、他の人とコミュニケーションがとれる能力がある人
- 互いの人格を尊重し、自らの個性を發揮しつつ、他の人と協働できる人間的素養を備えている人

（参考）第1次選考（センター試験）

教科	科目	本学での配点	
		A方式	B方式
数学	「数学Ⅰ・数学A」	300点 (各150点)	300点 (各150点)
	「数学Ⅱ・数学B」		
理科	A方式：「物理」、「科学」、「生物」、「地学」の中から2科目	300点 (各150点)	200点
	B方式：「物理」または「科学」		
外国語	「英語」	200点	200点
国語	「国語」	200点	
地歴・公民	センター試験で課す科目のうち1科目	100点	
合計		1100点	700点

第2次選考（面接試験）

- 面接試験では、アドミッションポリシーに基づき、受験生が大学の教育目標・求める人材像を理解し、入学する人物としてふさわしいか否かを評価する。
- 面接試験担当者から、志望動機や、工学・科学への学習意欲・興味関心、またコミュニケーション能力・話の論理性や協調性などの人的特徴を確認するための質問を行う。
- 受験生は、自分が何をどう学び、どんな学生生活をしたいのか、日頃からイメージを固めておくことが大切。

筑波大学における多面的な評価の取組事例（一般入試前期日程（総合選抜））

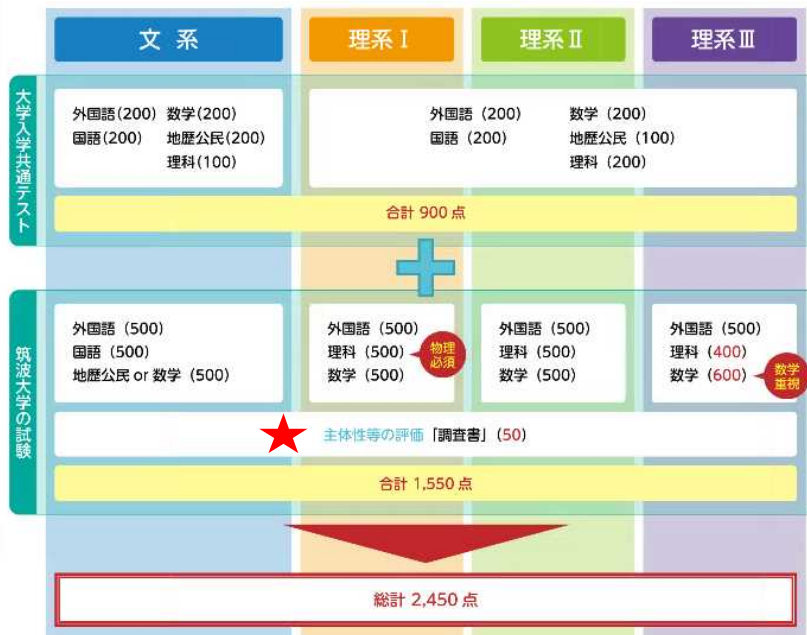
※一般入試はこの選抜のほか、「学群・専門学群選抜」があり、「総合選抜」と同様、主体性等の評価を行う予定としている。

概要

- 選抜区分：一般入試前期日程（総合選抜）
- 選抜方法等：センター試験5教科7科目、個別学力検査、主体性等の評価

【概要】

- 入学後に学問分野を俯瞰しながら専門を定め、自らのキャリアを主体的に切り拓きたい人のために、**学群・学類の枠を越えて選抜する「総合選抜」※を新たに設け、令和3年度入学者選抜において実施**
(主体性等評価の配点は総点のおおむね2%とする。)



※入学定員の約25%を募集人員として設定。1年次は特定の学群・学類に所属せず学修し、2年次から学群・専門学群に所属させる。

評価方針

- 調査書の評価
→ 証明書等の提出は求めない
- 通常の学びを重視
→ 際立った活動歴や活躍、特別な資格の提示を強いるものではない
- 評価項目の設定
→ 高校の負担増とならないよう具体的な項目と観点を設定
- 文書の表現や量は関係なし
→ 生徒本人の学習や活動等の事実を客観的に評価
- 受験生に配慮した評価
→ 志願者の自己申告を補助的に利用すること等も検討
- より良い高大接続を目指す
→ 学びを引き継ぐ大学として受験生本人や高校教育を理解するために活用

調査書の評価項目及び基準

項目	高い評価となる例	配点割合 (50点満点)
① 学習等	肯定的な評価が3年分記載されている	①と②で総計の3分の2以上の得点とする
② 部活動・ボランティア・留学等	具体的な活動の記載(部活動名等)が2つ(2年分)ある	
③ 特別活動(生徒会・委員会・クラス係等)	生徒会やクラス係を問わず、具体的な活動の記載(役職名や係名等)が1つある	
④ その他の活動等	校内・校外問わず、具体的な活動の記載(役職名や係名等)が1つある	
⑤ 賞・資格等	全国的な評価が1つある	⑤の割合は低く設定する

※現時点で決まっている内容を記載。なお、令和3年度入試においてはJAPAN e-Portfolioは利用せず、独自の調査書を提出させることとなっている。

早稲田大学における多面的な評価の取組事例（一般入試）

概要

- Waseda Vision 150に掲げる「入試戦略」の一環として、**2021年度の一般入試における全学出願要件として、「主体性」「多様性」「協働性」に関する経験の記入を求める**
- **調査書ではなく自らwebに入力（100字～500字）**
- **得点化せず、主体性についての情報を入学後教育に活用**

Waseda Vision 150

【改革の概念図】



2018年5月30日
2019年5月10日更新
早稲田大学

2021年度 一般選抜（現行の一般入試）および大学入学共通テスト（現行の大学入試センター試験）を利用した入試の改革

すでに現行の一般入試問題でも、単なる「知識」だけではなく、「思考力・判断力」および「表現力」を必要とする問題を出題しています。こうした出題についてさらに工夫を加えて、高校までの学習をより適切に評価できるように努めてまいります。

それに加え、**Web 出願時に、「主体性」「多様性」「協働性」に関する経験を記入（注）**してもらおうとします。

（注）

- ・ 学校が作成する調査書に記載するのではなく、受験生本人が自分自身の経験を振り返り、文章化してもらいます。記入は出願要件としますが、得点化はしません。
- ・ 併願学部が複数あったとしても1回記入すれば全ての学部にも適用します。
- ・ 記入した内容は、学生調査データの一部として、入学後の学部での教育の参考資料として活用します。
- ・ 高等学校入学に相当する年齢からこれまでに、学校内外にて「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」をもって活動・経験してきたと受験生本人が考えていることについて、100文字以上500文字以内で記入してもらいます。